

第1学年英語科学習指導案

日時：平成17年9月30日(金)5校時
生徒：1年C組 男子15名 女子17名 計32名
指導者：中野 誉史
Mark Ushizawa Hiroyuki

1. 単元名 Unit 6 南半球からのメール(NEW HORIZON ENGLISH COURSE 1)

2. 単元について

(1) 教材観

この単元では、オーストラリアに住むマークの姉、ベッキーが話題の中心になっている。アルバムを見ながらマークが姉について紹介したり、ベッキーからの写真付きのメールを見ながら由美とマークが対話したりする場面などから本文が構成されている。また国際理解を深める話題として、ベッキーの俳句の内容から、日本とオーストラリアでは季節が逆になること、オーストラリアでは日本語を学ぶ人も多いことなどにも触れている。

言語材料については、一般動詞の三人称単数現在形の平叙文や疑問文、否定文の形・意味・用法を学ぶ。この一般動詞の三人称単数現在形は日本語にはない英語特有の語法であり、「平成15年度学習定着度状況調査報告書」でも一般動詞の三人称単数現在形の問題の正答率が18%と低いことが示されているように、定着度合の低い学習内容であるといえる。

(2) 生徒観

生徒の英語学習観 <SD法(20項目)による調査から>

SD法による調査によると、次の6項目においてクラス全体の70%以上の生徒がプラスの意識をもっている。

「明るい(+)/ 暗い(-)」 「おもしろい(+)/ つまらない(-)」 「元気な(+)/ 元気のない(-)」

「楽しい(+)/ 苦しい(-)」 「はやい(+)/ おそい(-)」 「新しい(+)/ 古い(-)」

逆にクラス全体の70%以上の生徒がマイナスの意識をもっている項目はなかったが、比較的マイナスの意識の高い項目(生徒の約50%がマイナスの意識を持つ項目)は、次の2項目であった。

「やわらかい(+)/ かたい(-)」 「やさしい(+)/ むずかしい(-)」

以上のことから、4月から本格的に始まった英語の学習に対する意欲を、現在も失わずに学習に取り組むことができていることがわかる。しかし、徐々に複雑な学習内容が出てきたことによって、理解できないことへの不安な気持ちも高まっていることが感じられる。今後も、意欲を高めるとともに不安を取り除くような、「楽しくてわかる授業」を生徒とともにつくっていきたい。

生徒の実態

中学校生活にもだいぶ慣れ、宿泊研修や体育祭などの行事も体験し、現在はそれぞれの特徴などお互い把握した中で生活している。学級全体としては、信頼をよせられるリーダーのもとよくまとまっており、ムードメイカーが学級を盛り上げ明るく元気に生活している。一方で、自分の考えなどを発言できない内気な性格の生徒が多いという実態もある。しかし、短学活や話し合い活動など普段の生活・自治活動などを通して、自分の考えを持ち、伝え合うことや大きな声で人前で発表することなど、徐々にではあるが成長した姿が見られる。学習面については、学習意欲・規律ともに概ね良い。家庭学習については入学当時から取り組みにより、習慣づけがなされている。しかし、一部の生徒ではあるが、なかなか学習習慣を付けられない生徒、個別指導が必要な生徒がいる。根気強く、目標を持たせながら学習方法の指導を続けていきたい。また、学習に取り組もうとする意欲はあるが学習方法に改善が必要な生徒がいるため、今後も継続した指導が必要である。英語は、中学校から本格的に習う教科ということもあり、興味を持って熱心に取り組む生徒が多い。しかし、中学1年の現段階でもすでに学力差が見られるなどの問題点も見られる。学力の低い生徒については、彼らのささやきなどに反応しながら「わかりたい」という気持ちを大切に、そして「わかった」という喜びを味わわせられるように工夫し、うまく授業に入り込ませるように心がけたい。また、それと同時に、基礎・基本の定着に焦点を当て、楽しんで学ぶことができる工夫をするとともに、学習内容の定着と発展的な表現活動が可能となるようなコミュニケーション活動などを効果的に取り入れたい。

(3) 指導観(指導の構想)

言語材料(一般動詞の三人称単数現在形)は、主語によって動詞が変化する日本語には見られない語法であるため、日本語と比較し日本語との違いを確認しながら指導にあたりたい。

「読むこと」の学習については、教科書本文の中の新言語材料に注目させながらも、ベッキーや次郎がどういう人なのか全体の内容をしっかりと読み取らせたい。また、ベッキーの俳句の内容や由美とマークの対話の中から、日本とオーストラリアでは季節が逆になることや、オーストラリアでは日本語を学ぶ人も多いことなどにも国際理解を深める話題として触れたい。

3. 単元の目標

【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】

- (1) 対話文のロールプレイの活動に積極的に取り組もうとする。
- (2) 一般動詞の三人称単数現在形を用いた言語活動に積極的に取り組もうとする。

【表現の能力】

- (1) 一般動詞の三人称単数現在形を適切に用いて、人を紹介したり描写したりする英文を話したり書いたりすることができる。

【理解の能力】

- (1) 一般動詞の三人称単数現在形を含む文を、聞いたり読んだりしてその内容を正しく理解することができる。
- (2) 教科書本文を読んで、要点を理解できる。

【言語や文化についての知識・理解】

- (1) 一般動詞の三人称単数現在形の平叙文、疑問文・応答、否定文の形・意味・用法を理解することができる。

4. 単元指導計画と評価規準（総時数 10 時間）

時数	パート名 学習内容	コミュニケー ションへの 関心意欲態度	表現の能力	理解の能力	言語や文化に ついての 知識・理解	
10	2	一般動詞の三人称単数現在形の導入と練習	一般動詞の三人称単数現在形を使用した言語活動への取り組みが積極的である。			一般動詞の三人称単数現在形の形・意味・用法を理解し、基本文とその意味を言うことができる。
	1 (本時)	Unit 6 1 人について紹介しよう	一般動詞の三人称単数現在形の形、意味、用法を想起し、適切にベッキーを紹介するまとめのある英文を書くことができる。	ベッキーを紹介する教科書本文を読んで、その内容を理解することができる。		
	1	一般動詞の三人称単数現在形の疑問文・応答文の導入と練習	一般動詞の三人称単数現在形の疑問文とその応答による対話練習や言語活動への取り組みが積極的である。			一般動詞の三人称単数現在形の疑問文・応答の形・意味・用法を理解し、基本文とその意味を言うことができる。
	1	Unit 6 2 メールを見て		一般動詞の三人称単数現在形の疑問文・応答の形・意味・用法を想起し、ベッキーの俳句や由美とマークの対話を独力で音読することができる。	ベッキーからの写真付きのメールを見ながら由美とマークがする対話を読んで、その内容を理解することができる。	
	1	一般動詞の三人称単数現在形の否定文の導入と練習	一般動詞の三人称単数現在形の否定文による対話練習や言語活動への取り組みが積極的である。			一般動詞の三人称単数現在形の否定文の形・意味・用法を理解し、基本文とその意味を言うことができる。
	1	Unit 6 3 メールを見て		一般動詞の三人称単数現在形の否定文の形・意味・用法を想起し、由美とマークの対話を独力で音読することができる。	ベッキーからの写真付きのメールを見ながら由美とマークがする対話を読んで、その内容を理解することができる。	
	1	まとめの練習 人について話そう				be 動詞及び一般動詞の形・意味・用法を復習し、主語と動詞の関係を理解し、基本文とその意味を言うことができる。
	1	Listening Plus 2 外国からの友達		自分の友だちや家族の紹介文を英語で書き、発表することができる。	ケイトやトム英語での自己紹介のスピーチを聞いて、それぞれどんな人が聞き取ることができる。	
	1	Speaking Plus 3 道案内	道を尋ねたり教えたりする対話の練習への取り組みが積極的である。	目的地までの乗り物の行き方を尋ねたり、教えたりする対話を独力ですることができる。		

5. 「読む力」「書く力」を育てる学習指導の在り方についての基本構想

昨年度の学習定着度状況調査のデータなどから、「書く力」が弱いという状況は明らかである。そこで、「書く力」を育てる学習指導はどうあるべきかを検討することから、英語科プロジェクトチームの取り組みが始まった。その中で、新言語材料の習熟の段階における、教科書本文を最大限いかした「読むこと」の学習から「書く力」につなげる指導過程の模索を行った。そこで、「読むこと」「話すこと」「書くこと」「聞くこと」の4領域は密接に関わり合っているものであることを踏まえながらも、ここでは「読む力」「書く力」を育てる学習指導の在り方に焦点をあてた基本構想を打ち出すこととした。

(1) 「読むこと(読解)」の指導について

「読むこと」の指導における問題点

「読むこと」の指導における問題点として、おもに次の2点が考えられる。

1つめは、普通の授業で教材を生徒に与える段階で、「何かを知りたい」という「読むこと」の積極的な理由・動機、つまり興味関心づけが十分になされていないことである。普段の生活の中で何かを読む場合、新聞であれ雑誌であれ、何らかの読む目的や関心があるものである。しかし、授業の読む活動の中では、生徒の読むことに対する興味関心についてはあまり配慮されていないことが多い。これでは、「読むこと」が単語の意味を追って文意を把握するだけの、受け身的な活動になってしまう。

2つめの問題点として考えられることは、英語学習が文法や語彙の学習に偏りがちになる点である。文法や語彙の学習に比重が置かれ、英文の全体的な内容を知るといった基本的な「読む」目的が失われていることがしばしば見受けられる。興味や関心を持ちながらその内容を理解するという、本来の「読むこと」の目的には適していない。どうしても単語の語義や使い方、そして文法などの細かい部分に生徒の意識が集中してしまい、「木を見て森を見ず」という結果になってしまっているように感じられる。第2言語を学習するという点からは、文法や語彙の定着をねらったリーディングも必要ではある。しかし、そこに偏りが生じることにより、「トンネル的視野」からの情報しか得られないだけでなく、情報の処理速度も遅くなり、全体の正確な理解を妨げることにもなるため、問題点として捉えるべきことと考える。

以上のことを補足・補充する資料として、「平成11年度実施第7次学習状況調査報告書」に記述されている「読むこと」の指導改善の視点にも触れておきたい。ここには以下の6つの視点から「読むこと」の指導における問題点が挙げられている。

(ア) 英文を逐語的に日本語に訳すことを精読ととらえていないだろうか。

(イ) 全部の生徒が全文を日本語に訳す必要があるのだろうか。

(ウ) 授業後に「日本語に訳せたが筆者が何を言っているのか分からなかった生徒」はいないだろうか。

(エ) 授業後に日本語訳しか思い出せない生徒はいないだろうか。

(オ) 日本語で意味がわかった後に、本当の「読むことの言語活動」が始まるのではないだろうか。

(カ) 生徒が英文にこだわりをもてる授業だろうか。(説明一辺倒の授業になっていないだろうか)

「読むこと」の指導の留意点

以上のような問題点をうけて、「読むこと」の指導における留意点を次の3点にまとめてみた。

1つめは、教材提示段階での生徒への興味づけの工夫と、読解活動段階での生徒が内容を正確に理解するための工夫・手立てが必要だということである。

2つめは、生徒すべての回答が同じでなくてもいいような発展的な問題(作者の意図を考えさせる問題や話題になっていることへの生徒のそれぞれの考えや感想を尋ねる問題など)に取り組みせながら、その題材に対して生徒がより深く考え、教材提示段階での興味関心の喚起に応えることができる終結のしかたを工夫することである。

そして3つめは、「読むこと」の授業を単独で扱うのではなく、「話すこと」「書くこと」あるいは「聞くこと」の学習と統合することで、学習者のより実践的で総合的な言語能力の育成を目指すということである。例えば、読解の授業においても、教材を理解して終わるのではなく、口頭での導入などによる「聞くこと」の学習や、題材の中の言語材料を使って自分のことや身の回りのことを表現するなどの「書くこと」「話すこと」の学習を取り入れた授業を展開することによって、言語能力が育成されるということである。

以上のようなことを考えながら、「読むこと」の指導を進めるべきだと考える。

「読むこと」の指導過程

以上の留意点のもと、つぎの3段階からなる「読むこと」の指導過程を考えた。

(ア) **pre-reading** ...読み取りの導入段階

- <留意点> () 教材のテーマを提示し、学習者の興味や関心を高める。
() 読むための目的を明確にし、積極的な読みを促す。
() 語彙や文法事項などのレディネスをそろえる。

(イ) **while-reading** ...読み取りの段階

内容的なものを尋ねる発問や、単語や文法などの言語材料に関して尋ねる発問を用いて読み取りを進める。読み進める過程での生徒の興味関心を持続させることに配慮する。

- <留意点> () 文章全体の内容をつかませる読み取りを行う。
() 作者の意図の理解につながる読み取りを行う。
() 文や段落の組立の理解につながる読み取りを行う。
() 新出言語材料の理解につながる読み取りを行う。

(ウ) **post-reading** ...読み取りの深化(読み取り後の言語活動)の段階

- <留意点> () 読み取った内容を振り返り、それが正しく理解できているかを確認する。
() 新出言語材料の理解度を確認する。
() 読み取りから習得した知識や新言語材料などの技能を活用した活動を行う。

(2) 「書くこと」の指導について

「書くこと」の領域の落ち込み

平成 16 年度学習定着度状況調査結果報告書において、次のような結果が示されている。

「聞くこと」については、いずれの学年でも正答率 85% を上回っているが、「読むこと」「書くこと」は学年進行とともに、正答率が下がっている。特に、「書くこと」については、第 1 学年では、英語の単語を書く段階でつまずきが見られるようである。

<表 1> 平成 16 年度学習定着度状況調査 領域別正答率(岩手県)

	聞くこと	読むこと	書くこと
第 1 学年	86%	88%	77%
第 3 学年	91%	61%	41%

本校の生徒についても同様なことが言える。まず、平成 16 年度学習定着度状況調査結果から見ても、県の正答率と比べて特に下回っているもの(県との差が -5 以上のもの)は 25 問あるが、そのうちの 18 問が「書くこと」の領域の問題であった。このことから、明らかに「書くこと」の領域の落ち込みがわかる。また、普通の授業や小テスト、定期試験の結果から見ると、「単語を書く」段階でつまずいている生徒の多いことがうかがわれる。

「書けない」要因

「書くこと」の領域に落ち込みが見られることはわかるが、それはなぜなのかを考えたい。「平成 16 年度学習定着度状況調査 事後指導の手引き(中学 3 年)」には「書けない」複数のレベルが書かれており、最終的に次のような 3 つの要因があげられている。

- (ア) 語彙が習得されていない
- (イ) 表現形式(文法事項、イディオム等)が習得されていない。
- (ウ) つながりのある複数の文を書く練習が不足している。

この 3 つの要因をもとに本校の生徒はどの段階で「書くこと」につまずいているか考えてみると、前述の通り、普通の授業や小テスト、定期試験の結果などから見ると、どの学年も上記(ア)の語彙レベルでのつまずきが大きい。生徒からは「言えるけど書けない」という言葉がよく聞かれる。音声レベルでは習得されているが音と文字の関係が理解できていなかったり、書く訓練が不足していたりすることに原因があると考えられる。しかし、語彙レベルでのつまずきがあるからといって、(イ)(ウ)の段階についてはまったく習得できていないというわけではない。(イ)(ウ)の段階に関しても、語句整序・文整序の問題の正答率を見ても知識としては概ね習得できていると考えられる。よって、語彙レベルを習得されていないことが「書くこと」の領域の落ち込みの主な原因と考えられるが、(ア)(イ)(ウ)それぞれの段階は独立して存在するわけではなく、どれも深く関連しているという観点から全体的なレベルアップを図る必要があると考える。

また「書くこと」の落ち込みが著しいとはいえ、4 領域はそれぞれ独立した個別の領域ではありえず、密接に関係したものであり、4 領域の学習を統合することで、生徒のより実践的で総合的な言語能力の育成を目指すことは大切である。従って、4 領域の調和のとれた指導を前提としながらも、「書くこと」の領域に落ち込みが見られるという現状を受けた指導の工夫・改善が必要だといえる。

「書くこと」の指導構想

(ア) 語彙レベルでのつまずきに対する指導構想

() 新出語彙の導入および練習の工夫

・ タイミング ... pre-reading の段階で新出語彙の学習を行う。

高等学校レベル以上の学習者にとって、新出語彙の学習は、文章の前後関係から語彙の意味を推測し、読み取りの中で習得していく方法が効果的だとされている。しかし、英語学習の初段階である中学校 1 年生にとっては、現段階で習得した語彙の量も十分ではなく、「読み取るために新しい語彙を習得したい」という意欲をいかすためにも、読み取りの前段階で新出語彙の学習を行うほうが効果的だと考える。よって、文章の内容を理解するために新しい語彙を習得したいという意欲を促したうえで、pre-reading の段階で新出語彙の学習を行う。

・ 新出語彙の導入

絵図や写真などを利用し、新しい語彙への関心を高めるとともに、新出語彙それぞれに視覚的イメージを持たせたい。語彙の習得と定着のために有効であると考えられる。

また、生徒の新しい語彙に対する音声への関心が高いことと、音声による学習活動は他の生徒と一緒に声を出して授業に参加できるということから、音声による導入を行いたい。

・ サーキット・トレーニング

サーキット・トレーニングは、「読んで、書いて、意味を言う」を合言葉に行う単語練習である。授業におけるサーキット・トレーニングは、「単語を何も見ずに正確に書くことができる」までを求めているものではなく、「語彙とその語の持つ意味の効果的な In-put」や「音声と文字の連結」を主な目的として行うものである。よって、実際に書く回数は、それぞれ 1 ~ 2 回程度となる。それを受けて、家庭において、生徒たちは「何も見ずに正確に書くことができる」ことを目指したサーキット・トレーニングに同じ要領で取り組む。また、ただ書くだけの作業的な活動にならないように、指書きや空書きを効果的に取り入れながら行う。

(イ) post-reading での「書く」活動

post-reading において、本文の内容を振り返るとともに、新言語材料の習得・定着を図る活動として視写を行う。その後、生徒同士でそれぞれが書いた英文を黙読し、感想やアドバイスを伝え合う。この感想やアドバイスについては、新言語材料に注目したコメント(例えば、三人称単数現在形の「s」が付いているかどうか)や、ピリオド・大文字小文字などの英文を書くルールに従って書かれているかなど、英文を読むときの観点を与えながら、それを元に相手の意欲を促すような感想やアドバイスを書かせる。また、学習内容によっては、視写に終わらず英作文を取り入れた活動も行う。

6. 本時の指導

(1) 本時の主題 Unit 6 南半球からのメール 1. 人について紹介しよう

(2) 本時の指導(到達)目標

ベッキーを紹介する教科書本文を読んで、その内容を理解することができる。【理解の能力】

一般動詞の三人称単数現在形の形、意味、用法を想起し、適切にベッキーを紹介するまとまりのある英文を書くことができる。【表現の能力】

(3) 本時の評価規準と具体的評価規準

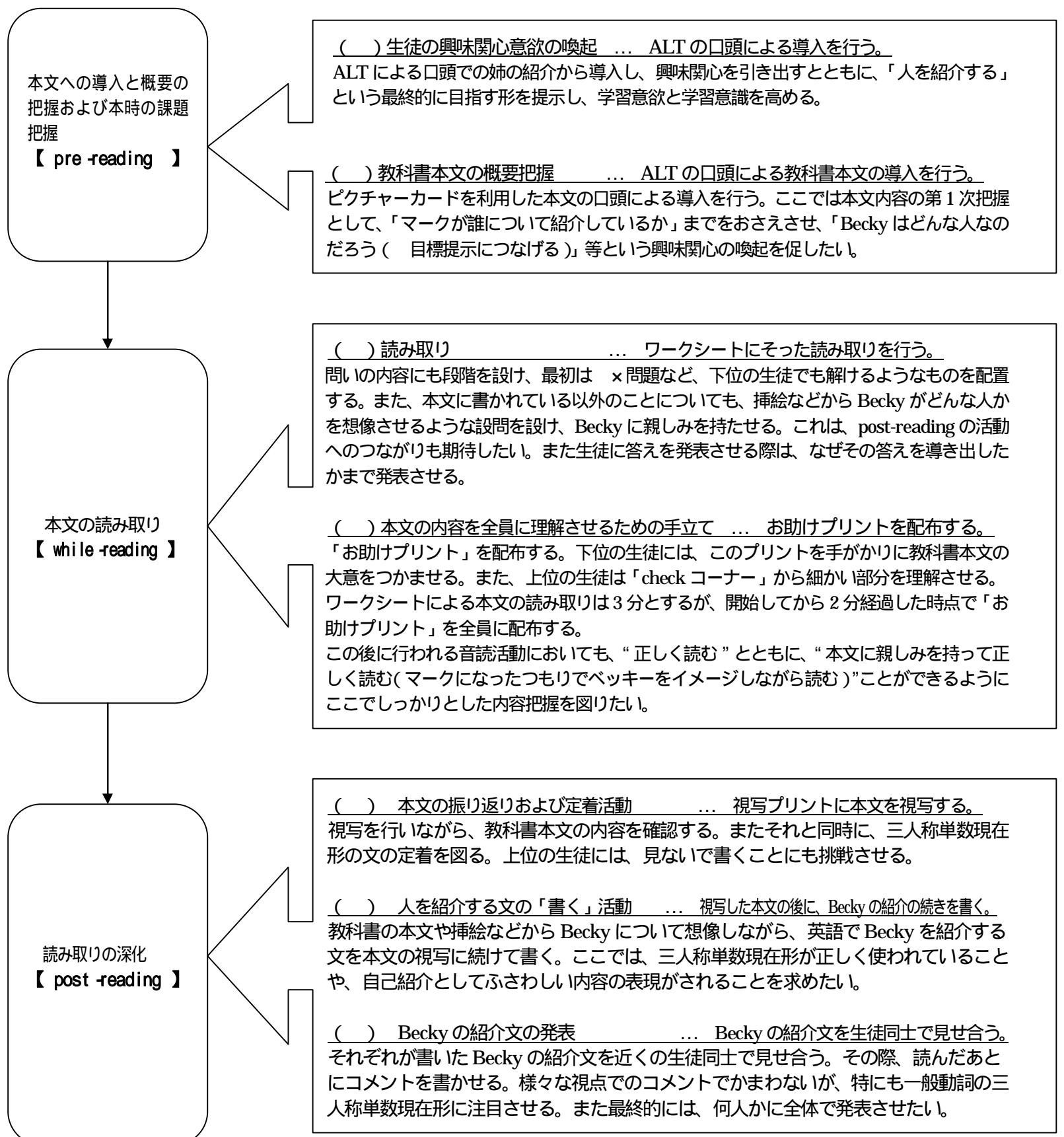
評価規準	具体的評価規準		C:努力を要する(具体的な手立て)
	A:十分満足できる	B:概ね満足できる	
ベッキーを紹介する教科書本文を読んで、その内容を理解することができる。 【理解の能力】	ベッキーを紹介する教科書本文を読んで、その内容を正確に理解することができる。 (「教科書本文読み取り編(ワークシート)」の問いの4問()以上正解および問に解答することができる。)	ベッキーを紹介する教科書本文を読んで、その内容を概ね理解することができる。 (お助けプリントのヒントをもとに、「教科書本文読み取り編(ワークシート)」4問()以上正解することができる。)	本文の大意をつかめるように「お助けプリント」の使用を促す。
一般動詞の三人称単数現在形の形、意味、用法を想起し、適切にベッキーを紹介するまとまりのある英文を書くことができる。 【表現の能力】	Becky の紹介の続きを本文に続けて、適切にまとまりのある英文を書くことができる。(3文以上)	Becky の紹介の続きを本文に続けて、適切にまとまりのある英文を書くことができる。(2文)	教科書を見ながら、正しく写して Becky の紹介文を書くように指示する。また、クラスメイトの作っている英文を読み参考にするように指示する。

(4) 本時の指導の構想

「読むこと」の指導について

(ア) 「読むこと」の指導過程

「5(1)」で述べた3段階による「読むこと」の指導過程のもと本時の授業を進めることとする。
次にあるのは、それぞれの段階における本時の主な活動である。



本時における「書くこと」の指導

特に落ち込みの見られる「書くこと」に関わって、本時では次のような指導の手立てを行いたい。

(ア) 新出語彙の導入および練習の工夫

pre-reading における新出語彙の導入および練習については、次のような流れで行う。

(ALT と生徒とのやりとりの中で進める)

1. 絵・写真を提示し、ALT が新出語彙を音声で導入する
2. 「(例) What is “brother” ?」
生徒に意味を言わせる
意味をおさえた上で、ALT の後に続いて発音練習 (写真を見ながら)

3. フラッシュカードで文字の導入

4. サーキット・トレーニング
文字 音声、意味の確認
机の上で、単語を指書き
サーキット・トレーニング用紙に
実際に書く。(1~2 回程度)
空中に全員で指で単語を書く

(すべての単語について終わった後)

5. フラッシュカードを使ってまとめ練習
英語 音声、英語 日本語、日本語 英語
<全体練習 個人 全体(まとめ)>

単語を書くときは、
発音しながら書く。
書いたらその都度、
意味を言う。

本時におけるサーキット・トレーニングは、「何も見ずに正確に書くことができる」までを求めているものではなく、「語彙とその語の持つ意味の効果的な In-put」「音声と文字の連結」を主な目的として行うものである。よって、実際に書く回数は、それぞれ1~2回程度となる。それを受けて、生徒たちは「何も見ずに正確に書くことができる」ことを目指したサーキット・トレーニングに同じ要領で家庭において取り組む。

(イ) post-reading での「書く」活動 ... ベッキーの紹介文の拡充活動とその作品の生徒同士でのまわし読み

(「(4) (ア)「読むこと」の指導過程」の post-reading () 部分を参照)

(5) 本時の展開

段階	学習活動	JET	ALT	指導上の留意点・支援の手だて	評価規準 下位目標	具体的評価規準 評価方法
導入 5分	1 挨拶をする			・英語で挨拶を交わすことにより、英語を学習するという雰囲気を高める。また、緊張する生徒がいるので、教師は笑顔で接する。	しっかり挨拶ができる。	・観察：心構え、物構え (学習用具準備)
	2 既習事項の復習 (1) 3人称単数現在形の確認(紙板書、CD)			・3人称単数現在形を用いた教師の英文や板書で想起させる。	3人称単数現在形の文の形と意味がわかる。	・観察：教師の発問に対する解答状況
展 開 35分	3 本文への導入と概要の把握 および本時の課題把握 【pre-reading】 (1) 英語によるOral Introduction (写真) (2) 英語による教科書本文のOral Introduction (ピクチャーカード) (3) 学習課題の把握 (紙板書)			・ALT が話した内容を把握できるように、写真や他の生徒の発言などを活用する。 聞き取りのポイント(誰について話しているか)を与える 誰について話しているかに注目させながら効果的に導入する(ピクチャーカード) 誰についての紹介かを確認し、本時の課題を提示する	ALT が誰について、どんなことを話しているか理解することができる。 ピクチャーカードや教師の英語や身振り手振り、他の生徒の発言などをともに、本文の概要および本時の目標をつかむ。	
	4 新出単語の導入と練習 (1) 英語が表すものを視覚的にイメージする(写真) (2) 発音を聞く (3) 発音練習をする (4) 文字と音とを確認する (フラッシュカード) (5) サーキット・トレーニング (6) フラッシュカードによる練習			・文字と音声のつながりを意識しながら正しい発音の練習をするように指示を与える。また、正しい発音や意味の確認をしっかり行い、サーキット・トレーニングやフラッシュカードを使用した練習につなげていけるようにする。	新出単語を正しく発音し、意味を言うことができる。	
	5 本文の読み取り 【while-reading】 (1) 黙読 (2) ワークシートにそって教科書本文の内容を読み取る (3) 教科書本文の音読 範読 教師の後に続いての音読練習 個人練習 速音読(20秒×2) 発表・一斉読み			C: 本文の大意をつかめるように「お助けプリント」の使用を促す。	ベッキーを紹介する教科書本文を読んで、その内容を概ね理解することができる。	A: 「教科書本文読み取り編(ワークシート)」の4問(含む)以上正解および問に解答 B: お助けプリントのヒントをともに、「教科書本文読み取り編(ワークシート)」の4問()以上正解することができる。 C: 「教科書本文読み取り編」の問(×問題)不正解 (観察：机間巡視・発表)
6 読み取りの深化 【post-reading】 (1) 視写プリントを活用しながら、本文の内容を確認する (2) 視写プリントにBeckyの紹介の続きを書く			C: 教科書を見ながら、正しく写してBeckyの紹介文を書くように指示する。また、クラスメイトの英文を読み参考にするように指示する。	本文の内容を把握したうえで、マークになったつもりでベッキーをイメージしながら、正しい発音で音読することができる。 (観察：机間巡視・発表)	A: Beckyの紹介の続きを本文に続けて、適切にまとまりのある英文を書くことができる。(3文以上) B: Beckyの紹介の続きを本文に続けて、適切にまとまりのある英文を書くことができる。(2文) (観察：机間巡視・プリント)	
終 結 10分	7 まとめ (1) 生徒の作った英文をクラスメイト同士で交換して、メッセージを書きながら読み合う (2) 発表 8 本時の自己評価 9 次時の予告 10 挨拶			・本文の内容を確認しながら、クラスメイトの書いた本文を読み、振り返る。またクラスメイトの作った英文を読み、メッセージを書き込むことにより、学習内容の確認・評価を行い生徒同士で達成感を味わわせる。 ・自己評価カードを記入させることにより、効率的に授業の振り返りと授業後の見通しを短時間で意識させる。 ・次の学習への意識を高める ・生徒の努力を讃える		

ベッキーについて読み取り、ベッキーを紹介できるようになるう

ベッキーを紹介する教科書本文を読んで、その内容を概ね理解することができる。

一般動詞の三人称単数現在形の形、意味、用法を想起し、適切にベッキーを紹介するまとまりのある英文を書くことができる。

(6) 板書計画

<p>今日の目標 ベッキーについて読み取り、ベッキーを紹介できるようになる</p>	<p>Emi plays tennis. She likes English.</p>
<p>本文ピクチャーカード</p>	<p>(基本練習ピクチャーカード)</p>
<p>本文ピクチャーカード</p>	<p>解答 likes well オーストラリア とても好き 犬が好き、ピアノを弾く、 車を運転する など</p>

写真掲示の
スペース